

岡部定一郎「福岡城寸描」(16)

1. 福岡城の構え

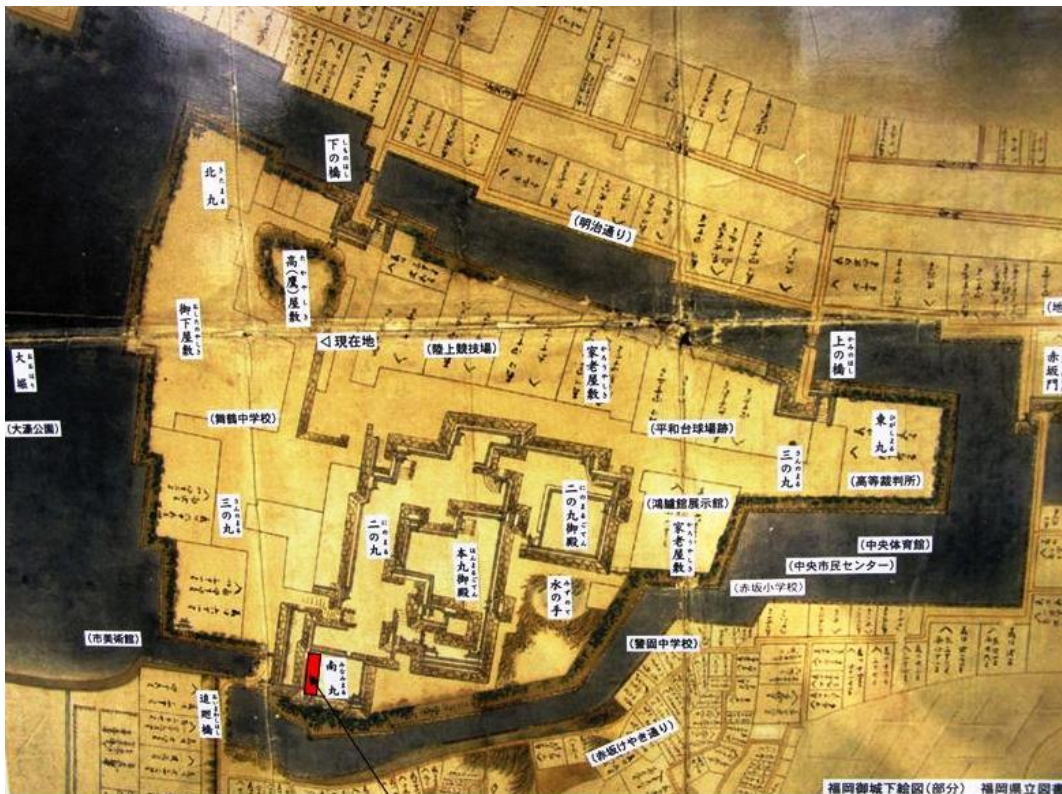
櫓の巻4 多間櫓

福岡城の南西に位置する南丸多間櫓は、福岡城に残る唯一の国指定重要文化財(昭和46年12月28日指定)であり、江戸時代と同じ位置に残っている櫓は、この櫓だけである。

総延長は、40間(約72m)、南北両端に二重二階建切妻造の角櫓を持ち、平櫓は多くの小部屋に分かれている。防禦のための実践的な機能を持ち、平時は、倉庫等に利用していたといわれている。

この櫓は、全国櫓ベスト2に位置付けられており、福岡城築城時の特色である、軒下方杖(※)を付けた白漆喰塗り腰下見板張りの構造を良く観察することができる、貴重な文化財である。

なお、現在のこの櫓は、昭和50年(1975年)に、解体、復元されたものである。



多間櫓



平櫓



角櫓と平櫓



※方杖(ほうづえ)

建物や橋などの垂直材と水平材との交わる箇所に、斜めに取り付ける補強材。

(日本国語大辞典)

